

1 学校として目指す授業

主体的・対話的で深い学びを実現するため、見通しをもって授業づくりを行う

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（3年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語・数学いずれも、全国・東京都の平均正答率を上回っている。国語では「話すこと・聞くこと」「書くこと」の正答率が東京都に比べてやや低く、数学では全国・東京都の平均よりも高いが、思考・判断・表現の正答率が低いため、対策が必要になってくる。	国語・数学・理科の勉強は好きですかという質問に対して、肯定的回答の割合はそれぞれ62%・64%・72%となっており、数学・理科に関しては全国・東京都の平均よりも高くなっている。一方で、国語・数学の授業はよくわかりますかという質問に対する肯定的回答の割合はそれぞれ84%・83%と「好き」と回答した割合よりも高くなっており、ある程度の学習の定着ができていることがうかがえる。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（1～3年生）

国語・社会・数学・理科・英語の授業内容はどのくらい分かりますか、という質問に対する全学年合計での肯定的回答の割合は、それぞれ90%・88%・84%・73%・74%となっており理科・英語の授業内容の定着に不安を抱いている生徒が多いことが分かる。また、授業内容はどのくらい分かりますかという質問に対する否定的回答の割合では、理科が1年生23%、2年生39%、3年生19%。英語が1年生22%、2年生31%、3年生23%となっており、特に学習内容は高度化してくる2年生での対策が必要となってくる。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（2年生）

国語・数学いずれの調査でも、正答率の平均は市と比べても上回っている。また、観点別・領域別の平均正答率をみても、国語・数学いずれも市の平均よりも上回っているが、国語の知識・技能の観点や言葉・情報・言語文化の領域の正答率が若干低めになっている。教科別にみると、国語はD層の割合がやや高いため基礎基本の定着が必要となってくる。また、数学では応用問題の正答率が38%と低めになっているため、応用力を伸ばすような学習展開をしていく必要がある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・学校評価アンケート(生徒用)の「先生方はわかりやすい授業を行ってくれている」という質問に対する肯定的回答(あてはまる・どちらかといえばあてはまる)の割合が、R5年度はR4年度と変わらず89%だった。しかし、肯定的回答の割合が1年生94%、2年生87%、3年生86%となっており、学年が上がり学習内容が高度化するにつれ低下してきている。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

各種学力調査の割合を見ると、数学では「思考・判断・表現」の観点や応用問題が、国語では「知識・技能」の観点や「言葉・情報・言語文化」の領域に若干の課題が見られる。また、小テストや定期考査等の結果を見ると、教科によっては二極化しておりD層に位置する生徒への対応が課題となっている。また、授業の様子を見ると、課題について読み解く力や表現する力をさらに高めていく必要がある。

4 学校全体の授業改善の視点

主体的・対話的で深い学びを実現するために、常に見通しをもてる授業づくりを行う。

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。
②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → <u>教育指導課へ提出する。</u>
⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。 評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道德	評価
1 学 年	班活動を積極的に取り入れ、自らの考えを他者に伝え、他者の意見を受け入れる力を養う。		教科書本文を読む力や理解力を向上させるために、教科書全文読みなどを継続していく。		授業内で生徒に説明させる機会を多く設定し、理解を協働的に深める。		生徒同士の教え合いの場を設けることで、計算問題や実験内容の知識・技能の定着を図る。		曲想についてグループで話し合い発表したり、合奏、合唱を主体的に行える場面を作る。		鑑賞の授業として、一つの作品について意見交換会を行う。他者の意見も感じとる。		グループ学習を通して互いの良い所や改善点などを話し合わせる機会を設ける。		●対話型の学習を進めるために班ごとに理解者が課題解決、定着に向け指導していく。 ●話し合い活動や調理・裁縫実習を通して、学習内容をより定着できるよう指導する。		QAや自己表現のペアワークを毎時間実施し、教え合いながら表現力を高め合っている。		対話を通して考える場面を設定し、発表し合うことで主題への理解を深めている。	
2 学 年	漢字や文法の知識を文章を読む中でも活用することを意識し、発見や考えた内容を他者と共有し合える活動を行う。		教科書資料や本文から、背景や情勢を踏まえて考察させ、資料を読み解く力を育成する。		教え合い活動を積極的に活用し、協働して問題解決を図るような機会を設けていく。		計算演習や実験授業を通して学びあうことで、学習内容をより定着できるよう指導する。		グループでの話し合いや発表を通して、表現することや、曲に対する理解を深める。		鑑賞の授業として、一つの作品について意見交換会を行う。他者の意見も感じとる。		個人種目においても生徒同士が教え合ったり話し合ったりする機会を多く取り入れる。		●課題解決に向けたICT活用を増やしていく。 ●ICTを活用しつつ、他者の考え方から自分の考えや視野を広げる。		授業では、常活動を始めたとしての対話活動などのペアワークを積極的に取り入れている。		個々で考え、対話を通して他者の意見を知り、協働的な作業や発表において学びを深める。	
3 学 年	表現を工夫して自分の考えを書き、他者との共有を通して自分の文章に還元できるような活動を行う。		知識活用のための話し合い活動を設定し、思考力や表現力を実践的に向上させていく。		生徒同士の対話によって、問題解決を図るような機会を設けていく。		身近な事象を例にあげ、お互いに話し合う機会を設けながら課題を解決する力を養う。		グループ活動や発表を通して、協働的な学びからより良い演奏を目指す場面を多く作る。		鑑賞の授業として、一つの作品について意見交換会を行う。他者の意見も感じとる。		ICTを活用しながら課題を発見し、生徒同士の教え合いや話し合いを通して課題を解決に向かわせる。		●情報活用能力の充実を広げ利便性の向上、注意喚起を受け止める。 ●調理・裁縫実習を通して、今まで習ってきた学習内容をより定着できるよう指導する。		常活動で基本の繰り返しとchat活動においてペアワークを取り入れ学びあいを計っている。		個々で課題に向き合った後に他者と意見を交流し、他者の意見を尊重しながら自らの考えを広げる。	